

令和元年6月28日

釜石市議会議長 佐々木義昭 様

会 派 21世紀の会  
代 表 木村 琳 藏  
報 告 者 千 葉 榮



### 「 会 派 視 察 報 告 書 」

当会派所属議員による視察報告を下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

#### 1 【 視 察 項 目 】

- (1) 「温浴施設の運営」について
  - ・環境ふれあい施設らくちーの
- (2) 「地域防災」について
  - ・大阪消防局 指令情報センター
  - ・日本一高いビル・あべのハルカス
  - ・大阪市立阿倍野防災センター・あべのタスカ

#### 2 【 視 察 日 程 】

令和元年5月23日（木）～ 令和元年5月25日（土）

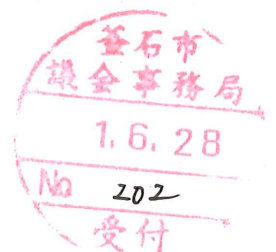
##### (1) 視察行程

- ① 令和元年5月23日（木） ※ 朝日町役場へ移動及び視察研修
- ② 令和元年5月24日（金） ※ 大阪消防局⇒日本一高いビル・あべのハルカス⇒阿倍野防災センター・あべのタスカ  
ル研修
- ③ 令和元年5月25日（土） ※ 釜石市へ移動日

#### 3 【 参 加 者 】

「21世紀の会」

- ・ 木 村 琳 藏 (代 表)
- ・ 佐々木 義 昭 (議 長)
- ・ 後 藤 文 雄
- ・ 千 葉 榮



#### 4 【相手方】

- (1) 朝日町役場 富山県下新川郡朝日町道下1133
- (2) 大阪消防局 大阪市西区九条南1-12-54
- (3) あべのハルカス 大阪市阿倍野区阿部筋1-43 あべのハルカス25階
- (4) あべのタスカル 大阪市阿倍野区阿部筋3-13-23 あべのフォルサ内

#### 5 【研修概要】

##### (1) 研修日及び研修内容(朝日町)

###### ① 令和元年5月23日(木)

ア 午後2時45分～午後3時45分

「温浴施設の運営」についての研修

イ 午後4時00分～午後5時00分

「温浴施設 環境ふれあい施設らくちーの」視察

###### ② 令和元年5月24日(金)(大阪市)

ア 午後2時30分～午後3時00分

「大阪市消防局内及び指令情報センター」視察

イ 午後3時30分～午後4時30分

「あべのハルカス」視察

エ 午後4時30分～午後6時00分

「あべのタスカル」視察

##### (2) 視察先対応者

###### ① 朝日町

ア (議会事務局)

笹原靖直町長・加藤好進議長・稲村陽子局長代理

佐渡 譲企画振興課長・水島 志津江(説明者)

イ (環境ふれあい施設 らくちーの)

住吉雅人商工観光課長・竹内文寿支配人

###### ② 大阪市消防局

ア (大阪市消防局本部)

城戸消防局長及び各部長(6名)・伊藤 学(担当・随行者)

イ (通信指令室)

朝井良一係長

ウ (アセット事業本部ハルカス運営部・あべのハルカス)

森田 壽彦課長

オ（大阪市立阿倍野防災センター）

本多義博防災センター長

（3）視察に取り上げた理由

① 《朝日町》

東日本大震災から8年と2ヶ月が経ち、各種インフラも整い、街中には市民待望の市民ホールが建ち、復興公営住宅も計画数1,316戸全てが完了した。そして、被災者を追悼する「祈りのパーク」や観光施設を始め各種公共施設も震災以前より充実した様に思われる。

また、ハード面の大型公共施設は、市民体育館と新市庁舎を残すのみである。しかし、今後、人口の減少や少子高齢化などにより、地方自治体の財源の確保が難しくなっていくなか、持続した行政運営を図っていくためには、産業の振興という面からの施設も必須である。

当市は「魚のまち釜石」として栄えてきた歴史はあるが、近年地球温暖化や各漁港での廻来船の誘致競争も激しく、漁港の受け入れ体制の強化のみならず、漁師の方々の福利厚生施設として、また、高齢者の潤いの場としての温浴施設は無くてはならない施設だが、財政面、運営面でハードルの高い問題であるとともに古くて新しい課題である。

富山県朝日町は当市とは明治から昭和にかけて漁業を通じて古くから人と人の繋がりがあり、昭和59年には友好都市の締結をした経緯から、また、スポーツや物産交流もあることから、朝日町が第三セクターで運営している「朝日町 環境ふれあい施設 らくち〜の」を視察先とした。

この施設は環境整備として、クリーンセンターからの熱処理を利用しており、当市にも同施設があり、併せて、この事業は朝日町の財政を補充しているという事で、是非参考にしたいと考え視察先とした。

② 《大阪市》

当市では、「安全安心のまちづくり」として、指定緊急避難場所への津波避難誘導標識などの環境整備を図るとともに、市内全域を対象とした地域・津波避難を実施し、また、台風などの大雨による洪水・土砂災害の危険性の高い地域が多い事から、地域の方々と一緒にハザードマップを含む「土砂災害自主避難計画」作成し、また、地域の実情に応じた自主避難訓練を実施している。

さらに地域における防災リーダー育成のため防災士の養成を行うほか、自主防災組織や町内会などと連携して防災活動の活性化に取り組み、地域防災力の向上に努めている。

それでも有事での災害を完全に回避できないまでも、減災に備える活動や防災意識は不可欠であり、尊い人命や財源を守る行動は、東日本大震災を経験した、私達の義務であり後世に残さなければならない教訓でもある。

そこで当市より、大規模な都市ではあるが、地域防災の取り組みとして、その組織・仕組みなど、当市として「やれること・やれないこと」も含め「より安全・安心なまちづくり」を目指すため、防災の先進地である「大阪市消防局」及び「ビルで日本一高いビル あべのハルクス」・「阿倍野防災センター あべのタスカル」の防災の取り組みを参考にしたく視察先とした。

#### (4) 研修内容

##### ① 《朝日町》

##### ア 「開会」午後2時45分～午後3時45分

朝日町議会事務局、稲村陽子主幹の進行により、進行表のとおり開始した。

まず、初めに笹原靖直町長、次に加藤好進議会議長の挨拶があり、東日本大震災の被災地へのお見舞いと、釜石市へ色々な面で、大変お世話になっている旨の感謝の言葉をいただいた。また、今日は、この研修が皆様にとって参考になれば良い旨の挨拶をいただきました。(要旨)

また、笹原靖直町長と加藤好進議会議長には、お忙しい中、研修の始まりから、終わりまでお付き合いを頂き感謝をしております。

首長が研修の始まりから終わりまで同席頂いたのは初めてで、朝日町の当市への思いの強さを感じた。

##### イ 21世紀の会 木村代表あいさつ

次に、木村代表から、釜石市も震災から、約8年半が過ぎ、現在、復旧、復興は進んでいますが、その中に於いて、ラグビーワールドカップの競技会場等の施設の建設にあたり財政をはじめとする維持管理が課題となっております。そして、少子高齢化と人口減を抱え公共施設のあり方などについても大きな課題である旨、また、釜石市と朝日町が友好都市を締結した経緯、釜石市への支援及び職員の派遣などのお礼、そして、今日は、温浴施設の先進事例を研修させて頂き、釜石市の市政に一石を投じたい旨の挨拶をした。(要旨)

ウ 朝日町の概要説明(議会事務局 稲村局長代理)・「温浴施設の運営」について(企画振興課 佐渡 譲課長、水島志津江主任)別添資料により説明を受ける。

※終了後、「温浴施設 環境ふれあい施設らくち一の」へ移動

エ 「温浴施設 環境ふれあい施設らくち一の」視察

午後4時00分～午後5時00分(商工観光課 住吉雅人課長、らくち一の 竹内文寿支配人)らくち一の現場を見学しながら、今後の課題及び組織について、別添資料により説明を受ける。

《 主な質疑応答 》(要 旨)

Q: 温浴施設を運営する中で、交流の促進・教育・合宿等の推進について力を入れている事は。?

A: 合宿や教育旅行の受け入れを通じて、地域の人との交流を図るためらくち一の及び町内の宿泊施設を利用した際、その一部を負担している。

Q: 生涯健康で活躍できる街を目指していると聞いているが、どのような事業をしているのか。?

A: 温浴施設を利用したスポーツクラブ活動(ヨガ・トランポリン・コアトレ・水中教室等)その他に介護予防体操(はつらつ健康サロン)認知症予防カフェ等を行いながら、町民参加のまちづくりに力を入れている。

Q: サテライトオフィス誘致とあるが、どのようなものか?

A: 地方へのビジネス参入を検討しており、首都圏等の企業を朝日町へ誘致する取り組みを行っている。

《 温浴施設 環境ふれあい施設らくち一の主な質疑応答 》(要 旨)

Q: 温浴施設の今後の課題は?

A: 温浴施設は平成12年4月から、18年経過とともに施設の老朽化が進み、今後、施設の改修費が負担となってくる。

Q: 今後、改修費が負担となってくるとの説明だが、対策は考えているのか?

A: 現在、町の公共施設長寿命化計画において、施設の改修計画を策定しており、緊急を要する温浴施設の屋根の防水対策をはじめ、設備機器修繕(各種ポンプや吸収式温水器、空調機器)が近々の課題である。

Q：温浴施設の管理、運営はどのようになっているのか？

A：管理について、町からの指定管理を行っており、基本的には、建物本体に係る施設修繕については、町負担としている。

また、運営については、委託先の会社により経営しているが、今般最低賃金の上昇や光熱水費の値上げ等により、経営が厳しくなってきたのが現状である。(平成29年度は、らくち一の収支決算として、赤字を計上)会社として2年連続赤字を計上したことから、富山県の指導のもと経営改善に向けた「第三セクター等経営健全化方針」を平成31年3月末に策定し、31年度数値目標を立て、現在運営にあたっている。

#### 《 視察所感 》

朝日町は、中核施設の基本コンセプトとして、温浴施設、「環境ふれあい施設らくち一の」を平成12年4月オープンから18年経過とともに施設の老朽化が進み、今後の改修費が負担となっており、現在、町の公共施設長寿命化計画において、施設の改修計画を策定している。

なお、建物の管理については、町から指定管理を受けた町内の有限会社が行っているが、基本的に係る施設修繕については町負担としている。

また、運営に関しては、今般の最低賃金の上昇や光熱水費の値上げ等により、経営が厳しくなってきた現状であり、会社として2年続けて赤字を計上してきたことから、富山県の指導のもと経営改善に向けた「第三セクター等経営健全化方針」を平成31年3月末に策定し、31年度数値目標を立て、現在運営にあたっており、現在、地域環境と調和した魅力あるまちづくりを特定政策課題として頑張っている。

釜石市でも、温浴施設が欲しいと言う市民の意見も多いことから、今後、当会派でも、いろいろと議論を交わし、当市の温浴施設の取り組みについて、今回の研修を活かし、前向きに考えていきたいと感じた。

#### ② 《 大阪市消防局・あべのハルカス・あべのタスカル 》 視察

##### ア 「開会及び大阪市消防局内及び指令情報センター」

午後2時30分～午後3時00分

先に、伊藤 学(担当・随行者)の案内で、消防局5階、消防局長室に於いて、城戸消防局長、各部長及び幹部の方々へ、東日本大震災での釜石市への支援、消防車両寄贈等のお礼、また、今回の視察の対応等について、木村代表から感謝の挨拶をした。

その後、城戸消防局長から、歓迎の挨拶を頂き、15分程意見交換をした後、時間の関係から、朝井良一係長の説明により、指令情報センター内（指令管理業務）の視察を実施した。

※終了後、大阪市消防局の案内で「あべのハルカス」へ移動

#### イ 「日本一高いビル・あべのハルカス」視察

午後3時30分～午後4時30分（ハルカス運営部 森田壽彦課長）

高さ300mの日本一の超高層を支える防災設備、建築設備など、アテンドスタッフも普段は決して立ち入ることができない、バックヤード等を丁寧に別添資料に基づき説明を受けた。

#### 《 主な質疑応答 》（要 旨）

Q：ビルとしては、300mと日本一高いビルという説明だが、どのような構造になっているのか？

A：耐震構造×制震構造のハイブリッド構造で、最新の「耐震技術」と「制震技術」を組み合わせた、超高層建築として震度7クラスも想定した最高水準の安全性を確保している。

Q：日本一高いビルという事で、かなりの光熱水費がかかると思うが、対策はどのようにしているのか？

A：自然と光と風を充分活用して、省エネ、省CO2を実現しており、自然光は照明の負荷を低減、外気は空調に利用することで、太陽の光が差し込む大開口の窓ぎわでも、快適な室温で過ごせるような作りをだしている。

#### ウ 「阿倍野防災センター・あべのタスカル」視察

午後4時30分～午後6時00分（本多義治センター長代理）

阿倍野防災センター・あべのタスカルは、近年発生した災害の教訓や、南海トラフ巨大地震への備えなどについて学べる同施設は、震度7の体験をできる起震装置、消火を体験する消火コーナーなどを加え、防災体験学習エリア（13体験コーナー）など、別添資料により説明を受けた。

#### 《 主な質疑応答 》（要 旨）

Q：阿倍野防災センター・あべのタスカルを始めた、大きな理由は？

A：あべのタスカルは、市民が地震や火災等災害発生時に必要な一連の

行動を関連づけて、映像・振動・効果音を駆使した、リアルな地震や煙体験、消火・通報・応急手当などができる。

また、地域における防災活動の推進者である地域防災リーダー、女性防火クラブ員、事業所の防火管理者、その他防災関係者がより専門的な防災技術を音響、映像機器、実物の消防用設備等を使用して総合的な研修訓練ができることで、災害に強い人と組織づくりを図るため始めた事業である。

Q：災害体験コーナーで経験したことが、市民に何か生かされていることはあるのか？

A：1995年に発生した阪神・淡路大震災後、関西でも東南海・南海地震の発生が危惧される中、地震をはじめとした大災害に対する、市民の防災知識と技術に対するニーズが高まってきている。

阿倍野防災センターは広く市民の防災に対する知識と技術を総合的な体験を通じて学習が出来るため、市民の防災意識が高まるものと思う。

Q：このセンターは、防災に対する知識と技術を総合的な体験を通じて学習出来る施設とあるが、大地震の可能性をささやかれる中、災害時に必要な行動をここで学ぶことができるのか？

A：館内は豊富なデータベースから、防災や災害に関する情報を調べることができる防災学習ゾーンと、地震で崩れ落ちた街中を一連の流れの中で避難・体験し、地震や火災などの災害時に必要な行動をわかりやすく学ぶことができる地震災害体験ゾーンがある。なかでも阪神・淡路大震災規模の震度7の大きさを体験できるバーチャル地震コーナーや、2F建て家屋の消火を体験する消火コーナーは真に迫る迫力、4つの見学コースが設定されており、災害時に必要な行動をここで学ぶことができると思う。

#### 《 視 察 所 感 》

「開会及び大阪市消防局内及び指令情報センター」・「日本一高いビル・あべのハルカス」・「阿倍野防災センター・あべのタスカル」視察した。

指令情報センター（指令管制業務）では、火災・救急指令機能を中心に地図情報機能や消防車両動態管理・情報伝送機能など、科学化・高能率化を図り、複雑多様化する各種災害に対処している。

「日本一高いビル・あべのハルカス」は、最新の「耐震技術」と「制震技術」



を組合せ、超高層建築として震度7クラスの地震を想定した最高水準の安全性を確保しており、超高層を支える防災設備、建築設備など、先進的な防災機能を集積したビルである。

また、「阿倍野防災センター・あべのタスカル」は、南海トラフ巨大地震への備えるため、自分の住む地域の特性に応じた災害危険を認識することで、自分に必要な知識や技術を選択し、広く市民の防災に対する知識と技術を総合的な体験を通じて防災意識が高まる体験型防災学習施設である。

今回、各施設を視察して、釜石市と大阪市では、人口、設備等、規模の点で大変、大きな差はあるが、当市にとっても参考にできることが数多くあると感じた。

その中で、当市に合ったやり方を考え取り組んで行くことが大事だと強く感じました。

阿倍野防災センターでは、新たに大阪市全域の被害規定や地域特性に応じた危険を学ぶ「おおさか防災情報ステーション」親子で楽しみながら防災を学ぶ「キッズしょうぼうパーク」では、高さ6m・長さ12mのスクリーン災害の恐ろしさを体験する「タスカルシアター」津波により建物が浸水していく様子をプロジェクションマッピングより実物大で表現するなど刷新した。

そして、タスカルシアターの中に、東日本大震災で被災した、釜石市の被害状況が10分間程、入館した全国の皆様に紹介されており感動した。

また、今回、各施設、担当者、関係者と意見交換を行い、大変有意義な視察であった。

## 6 【その他】：別添、写真、資料参照

# 朝日町・温浴施設



# 大阪市消防局・阿倍野防災センター

